

努力賞

柳田邦男先生へ

荒川区立第七峡田小学校五年

山口 幹太

柳田邦男先生、こんにちは。

ぼくは「あらしのよるに」という本を読みました。

先生は、だれかわからない人と話をした経験はありますか？

もしも相手が自分の命をねらっている危険な人だったら・・・

オオカミは、ヤギを食べてしまいます。

この本は、ある暗いこやの中でオオカミとヤギがであう話です。

オオカミもヤギも、相手が仲間だと思い、まさ

か相手がエサだとも、てん敵だとも思っていないでした。

わかるのは声だけ。

他にわかることは何もありません。

もしも自分がヤギだったら、怖くて怖くてたまりません。

オオカミが自分がヤギだとわかってしまったら、食べられてしまってもおかしくはありません。

ぼくがオオカミでも、きっとヤギにとびかかると思います。

でも話している中でどんどん仲良くなり、最後にはいつしよにごはんを食べるやく束もしてしまいました。

だからぼくは、仲良くなるためには、見ためはかんけいなくて、本当に大切なのは言葉なんだと

わかりました。

言葉にはきつと、不しぎな力があるんだと思いました。